

会 議 録

1 会議名

令和5年度 第2回高田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 地域活性化の方向性について（公開）
- (2) 令和5年度地域協議会の活動計画について（公開）

3 開催日時

令和5年5月22日（月）午後6時30分から午後8時4分まで

4 開催場所

福祉交流プラザ 第1会議室

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員：本城文夫（会長）、澁市徹（副会長）、高野恒男（副会長）、飯塚よし子、浦壁澄子、小川善司、北川拓、佐藤三郎、杉本敏宏、富田晃、西山要耕、廣川正文、宮崎陽、村田秀夫、茂原正美、吉田昌和

（欠席4人）

- ・事務局：南部まちづくりセンター 大島所長、滝澤副所長、石黒係長、難波主任

8 発言の内容

【石黒係長】

- ・栗田委員、小嶋委員、松倉委員、松矢委員を除く16人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めることを報告

【本城会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・会議録の確認：高野副会長、杉本委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【滝澤副所長】

- ・配布資料の確認
- ・次第に基づき議題を確認

【本城会長】

「議題等の確認」について質疑等を求めるがなし。

－ 次第3 議題（1）地域活性化の方向性について－

【本城会長】

次第3 議題（1）地域活性化の方向性についてに入る。

事務局より説明を求める。

【石黒係長】

前回の協議会でいただいたご意見を踏まえて、今月11日に正副会長と協議した結果、子育て若者世代から次の4名をお招きすることとする。子育て関係団体から、マミーズネットと上越おやこ劇場。若者世代からシェアハウス大町の大学生と東京のIT企業である株式会社テラスカイ上越サテライトオフィスの方にお声掛けし、調整させていただく。

【本城会長】

- ・事務局の説明について、質問のある委員の発言を求める。

【西山委員】

IT企業の方はどのような方か。

【石黒係長】

システムエンジニアを中心とした社員で、東京から会社の人事異動によって上越市に来られた方である。

【西山委員】

もともと地元でIT企業を立ち上げている若者ではなく、東京から仕事の関係でこちらに来た人ということか。

【石黒係長】

そうである。

【本城会長】

他に質問を求めるがなし。

事務局から説明があった4者で準備を進めて参りたい。相手方と調整をしてご案内をさせていただく。学習会は次回で最終回となるが、その後、地域活性化の方向性をまとめ上げていくということになる。どのように仕上げていくか参考として事務局が他の地域自治区の事例を調べたので説明を求める。

【石黒係長】

- ・資料No.1により説明

【本城会長】

- ・事務局の説明について、質問のある委員の発言を求める。

【富田委員】

中郷区について、地域住民との意見交換が未実施となっているが、中郷区では各世帯ごとにアンケートとして文案を作成したのではないか。全く意見交換をしないで作成したように見えるが。

【石黒係長】

アンケートについては聞いている。質問の仕方によりこのような回答となった。

【本城会長】

他にどうか。

【西山委員】

これまで勉強会を3回から4回実施をして、4名ぐらいつの方から意見を聞いたが、その意見だけを基に方向性をまとめるのか。今までを振り返ると高田区は、町内会長からまちづくりの人等、相当数の方に集まっていたいて、ここに書いてあるような意見交換をずっとやってきた。相当多くの数の意見をいただいている。今回それを参考資料にしないのか。そういう意見も参考資料にできるのであれば、参考にしたらよいのではないか。

【石黒係長】

過去の経緯も含めて、ぜひ皆さんにアイデアを出していただきたい。

【西山委員】

出していただくというよりも、もう出してあって、20も30も問題点が上がった会議録が残っているはずである。あれがなくなって破棄ということはないと思う。今まで町内会長が集まったり女性に参加してもらったり、いろいろな方とまちづくりの問題点について話し合い、意見と問題点が浮かび上がり、それらの中から自主的審議事項を取り上げる目的で実施していた。そちらの方が多くの問題点があがったので参考にしてください。

【滝澤副所長】

補足させていただきたい。この間、進め方は協議会の方で決めていただきながら、場合によっては正副会長、事務局との協議を経た中で進めてきた。今の意見についても、会長などのもとで協議させていただきたいと考えている。なお、本日資料No.2で、今後の作成の工程も示しているのので、そこの関係の中でまた協議いただけると考えている。

【本城会長】

資料No.2の工程表について、事務局に説明を求める。

【石黒係長】

- ・資料No.2により説明

【本城会長】

- ・事務局の説明について、質問のある委員の発言を求める。

【富田委員】

グループワークだが、先ほど西山委員が言われたが、過去に町内会へのヒアリングも行っている。自身も分科会の時にまとめたことがあるが、過去のものは、誰々が何を言ったで終わっている。起承転結になっていないが、そのままでもいいから参考にすればよいと思う。前から言っているように、意見交換するのはよいが、それをどのようにフィードバックするかが大事である。これまでそのような投げかけはなかった。意見を伺った方々に検討の経過と結果を報告する、これが大事である。それをしてこなかったのが信頼関係が築かれないのではないかと。地域活性化の方向性の検討では、西山委員が言われたようなことをぜひやるとよいと思う。

【澁市副会長】

富田委員がおっしゃっていることがよく理解できない。具体的にどういうことを

やればよいのか。今まで市議会議員、福祉関係者等いろいろ学習会をやって、いろいろな意見が出てきた。我々も自分自身で問題意識を持っている。それ以外に市の資料なども読んでいます。それらをもとに議論して、どのような目標にしたらいいのか、その目標を達成するためにどのような構成要素が必要なのかをグループワークの中で議論し、まとめていければよいと私は理解しているが、富田委員は具体的にどのような考えか聞きたい。

【富田委員】

町内会長と意見交換を実施している。

【澁市副会長】

7、8年前に実施したものをどうするのか。また、町内会と意見交換するということが。

【富田委員】

やるのではなく、それをまとめるのである。

【澁市副会長】

どうしてまとめるのか。町内会からの意見も市議会議員からの意見も扱いは同じではないか。私が委員になってから町内会長との意見交換はなかったと思うので、かなり古いと思う。それを引っ張り出してきて、それも参考に入れるということか。

【富田委員】

そうすれば意見が活かされる。そのようなフィードバックをしてきていないのである。

【澁市副会長】

私は2期目だが、最初の期には全くそういう話は出てこなかったと思う。西山委員が会長の時かと思う。もしそれが必要であったなら、それをきちんと文書にして皆さんに配るとか協議があったはずであるがなかった。今突然、町内会長からそういう意見が出ていたはずだなどと言われても、7年も8年も前の話を今取り出しても、町内会長も変わっているであろうし、世間の情勢も変わっている。それがどういう意味があるのか疑問である。今までいろいろな分野の方から意見をいただいたが、大体似通った意見である。意見というか、どのような課題があるのか、それらの資料を読み込んでさらに勉強しろということか。

【富田委員】

町内会が7、8年前に話した内容をまとめれば、今と同じだなどと気付くはずである。今回の地域活性化の方向性に向けた学習会では、町内会からは意見を伺っていないが、数年前には結構、意見交換を行ったものである。

【澁市副会長】

私が委員になってからそういうことはやっていない。

【澁市副会長】

私が西山前会長と本城会長からお聞きした話だが、高田地区町内会長協議会に本城会長がそういう話をしたら、どうも拒否反応を示されたと。西山前会長の話だと、町内会長と1回意見交換したが、いい印象がなかったと。それ以来、町内会と没交渉になったと私は理解している。委員の中にも町内会長の方もいらっしゃるが、やる意義があるのかどうか私はわからない。

【西山委員】

町内会長との話し合いは、1回、2回ではなく結構な回数をやっている。地域協議会ができた当初は、組織自体が町内会長協議会から受け入れられなかった。意見や課題というより、市はなぜ地域協議会を設置したのか、地域協議会自体が問題だという内容がほとんどであった。その後は、自主審議だとか問題解決に向けて、町内会から空き家や雁木など、色々な視点から高田地区の問題を出してもらった。澁市副会長がもう過去のものと言っているが、解決しているものはない。ほとんどない。次年度、次期で必要であれば、そこで活用しようと先送りしてきた経緯がある。過去の意見でも、まだ解決されていない部分が多いことから、前回協議会で示された工程案のとおり地域活性化の方向性の検討を進めるのであれば、そのような意見も頭に入れながらグループワークをやっていただきたいと思う。私はこの工程案を見た時、一部の人や市の職員だけの意見で文章をまとめることなく、全員がきちんと意見を言って、みんながグループワークに参加し、高田地区全体で方向性をまとめなければならないと思った。やっつけ仕事ではなく、会長や副会長や市でもなく、私たちの集大成であり、これが私たちの4年間の思いだということを任期の最後に言えるようにまとめたいと思う。会議をやっていても、どなたも発言されないではないか。本城会長がこんなに意見があっては困るというぐらい沢山の意見を出していただいて、高田地

区の問題を出して、それを皆さんでまとめて方向性を作成すればよいと思う。

【本城会長】

大変貴重なご意見をいただいた。本来、それが正当であり、そのように進めていきたい。ただし、残念ながら高田地区町内会長協議会と地域協議会のコミュニケーションが取れていない。私も努力をしているが、私の任期中に正常に戻るような雰囲気ではないと思う。そもそも地域協議会そのものが、必要性があるのかというところからスタートしているので、どうしても合併前のものとのとらえ方、13区と合併してできた28区という地域協議会のあり方から問われているので、どうしてもかみ合わない。高田地区町内会長協議会が市に直接、意見を上げるので、協議会を通してという2段階構えではない、このような関係もあるから、どうしてもしっくりいかない。先般の大雪問題などでは町内会長とも話をする機会があったので、ある程度意見を集約していく努力をしたい。それをグループワークの中に意見として反映できるように努力したい。

他にどうか。

【杉本委員】

いろいろな団体と協議してきて、その結果を地域協議会として相手方の団体に返していないのではないかというのが富田委員の意見だと思う。地域協議会は、お聞きした意見を返さなければならない組織なのかどうか。私はそういう組織ではなく市長からの諮問やいろいろな所から上がってきた意見を自主審議して市につなげるのが主要な役割だから、そこを踏み外してまでやる必要があるのか疑問に思う。また、返すというが、どうやって返すのか。その具体的な提案がないと返しようがない。例えば、地域協議会だよりが出ている。高田区は全戸配布ではなくて、班回覧になっているわけだが、これは返したことになるのか。どうもイメージされているのは、もう一度お集まりいただいて、こんなふうにしたのだがこれでよろしいかとお聞きをしないと返したことになるようなイメージを持っておられるように思うのだが、それはちょっと違うのではないのかというのが私の考えである。だから、これまでの地域協議会でいろいろなことをやってきて、それなりにきちっとした結論を出して、市に上げて市がそれに対応して、こういう対応をしていただいたということも地域協議会だよりで返しているわけだから、それ以上のことを具体的に何をどうす

るのか。例えば、先般の学習会では4人の方から意見を聞いたが、その聞いた意見について議論したことを返せと言われていたのだと思うが、具体的にどうやって返すのか。具体的な方法まで提案がないとただ言っているだけという話になるのではないか。

【富田委員】

我々は地域活性化の方向性の作成に向け、各団体から話を聞いている。それと同等に扱って、数年前にやられたことに再び光を当てて、こういうふうにとまとめたと報告する。そこで意見交換するとかではなく、それを報告するということが十分ではないか。

【杉本委員】

この協議会の委員同士でそれを見て議論するのは一向に構わないと思う。意見を聞いた相手方に返していないと言うことが疑問である。どうやって返すのか。我々としては、地域協議会だよりなどを通じて返しているはずである。それを返してないと言われると他の方法を考えなくてはならない。ほかの方法ということになると、一度意見を聞いた人たちにおいでいただいて、協議会だよりに書いてあるようなことをもう一度説明するしかないのではないか。それをやれというのであれば、会議の数がどっと増える。そういう時には、全員集まるのは会議の数が多くなるから不可能なので、三役だけでやる、あるいは、事務局でやってくればそれでよいということになるのか。具体的にそういう話がないと、我々が今までやってきたことを全否定されるような言い方はいかなものか。

【西山委員】

私は個人的には、懇談会を行った時に、皆さんからいただいた意見で必要なものはこちらで自主審議等に活用させていただいて、市に伝えさせていただくという説明が毎回あったと思う。その中で、例えば、空き家や本町の活性化もそうだし、いろいろなことで、高田地区は他の地区に比べて自主審議でお返しをしているところもある。それが意見を聞いているという返信とっていた。20も30も問題点を挙げられて全部を自主審議することができない中で、一番メインなものを自主審議にして、それで市にお伝えしているという部分もあるので、報告はそれでよいのかと思う。全部に一つ一つこうなったという報告はなかなか難しい。その意見も含めて、今回方向

性の中に組み込んで、こういう問題も過去にあったのだと思いながら、今でも問題だという部分があったら組み込めばよいだけであって、あれだけ議論して実績であれだけの数を出している。きちんと返信はしていると思う。

今日の協議会は、なんだかもう来年から地域協議会がなくなる前提で反省会をしているような雰囲気を感じられる。

【本城会長】

資料No.1で説明があったように、各区の集約の仕方を見ると、総合事務所のある自治区では事務局が作っている作品である。自主審議をして独自でまとめたのは二つである。南部まちづくりセンターが所管している和田区の方角性が今日配られたが、これはどういう経過を踏んでいるのか説明願いたい。

【滝澤副所長】

和田区の作成経過で、意見交換については実施していない。作成順序については、構成要素を先に作ってから見出しを作った。最終的に正副会長と事務局で素案をまとめはしたが、そこに至る経過として、各委員1人ずつそれぞれが考える活性化の方角性を持ち寄り、それをベースに素案を作成した。

【杉本委員】

既に完成させた自治区の手式が全部一緒である。こういう形式でないと駄目なのか。自主的に審議したのであれば、多分このように形式が同じものは出てこないはずであるが、このような手式でまとめろという指示が出ているのか。

【滝澤副所長】

約1年前に市のプロジェクトということで、多くの資料で説明させていただいた。その際の資料6で活性化の方角性の作成をまとめてある。その中で、基本形として雛形を示している。それを示し、各自治区で検討の際、雛形に当てはまるように作った結果、皆さん横並びという結果になっている。

【富田委員】

私の発言だが、全然否定はしているつもりはない。謝罪する。地域協議会だよりも書いてあることが証明されれば、もうそれで十分だと思う。皆さんに誤解を与えて申し訳なかった。この地域協議会をどうやったら盛り立てていけるかという主旨で発言したということをご理解願いたい。

【澁市副会長】

昨年の9月頃から市民の方から意見を伺っていたのは学習会であって意見交換会ではない。我々委員の知識レベルを上げる、知識の範囲を広げる、深くするということが目的で、我々が知識を豊富にした段階で、我々が地域の活性化の方向性を考え、そして作るというための行動だった。学校で言えば授業を受けたと同じである。それに対する答えはおそらくテストだと思うが、我々はテストを受ける必要はないと思っている。何ら返す必要はないと思っている。むしろそういうことで、知識レベルを上げ、範囲を広げ、深めたということなので、それをもとにこれから活性化の方向性を半年ぐらいかけて検討していくと考えればよい。

【吉田委員】

表題というのは、この和田区の地域活性化に向けての頭の見出し部分のことか。構成要素とは、短冊が5本あるが、この下にいろいろな細かいこと書いてあるのか。それとも、この1行1行を考えて終わりなのか。

【石黒係長】

1行1行が構成要素になる。

【吉田委員】

中身は何をするかを書けばいいということか。

【本城会長】

要は行政はそれを参考にすると前から言っているから、我々がまとめ上げたものを提出をする、それを行政の参考にするという形である。従って、我々が細かいことまで意見を出しても、参考にする程度に思うので、どうしてもその細かな所までいかに、箇条的な、審議をやる前に確か事務局案が皆さんのところに配られた、それが一つのモデルのように冒頭に示された。最後は、初めに配られたような形に集約されていく。既に完成した8区の方向性のうち、六つは事務局案という、行政がつくり出したものである。総合事務所のあるところは、そういう点では政策能力を持っている。我々のところは皆さんからいろいろ意見があったように、コンサルタントでも頼んで練り上げていかなければできない、という議論をずっとやってきた。この話を我々が丁寧に皆さんに返して、最終的に任期の中で方向性をまとめ上げようとしている。澁市副会長がおっしゃるように、我々は学習を積み重ねてきた。その成果をま

とめて市長宛に提出をするというところが最終着地点かと思う。

【西山委員】

教えをいただいた先生方をごっかりさせないレベルに集約していきたい。意見を伺った皆さんが高田区の委員は理解してくれたと実感できるような議論を今後もしていただきたい。

【澁市副会長】

三役だけではなくメンバー全員の責任でまとめていきたいと思う。

【小川委員】

今、澁市副会長がおっしゃったように学校の授業は先生が教える。それに対して聞いた子どもたちが関心を持って自分の何か好きなものを深掘りしていく。その中で、物に対する愛着、誇りが生まれて、自分の生き方の参考となっていく。私は澁市副会長のおっしゃったことをそのように理解した。これまでの学習会というのは、いろいろな方から意見を聞いた中で、そんな意見もあるのか、そんな活動もあるのか、そのようなヒントをもらったことを受け、私たち自身がそこへ行って自分の目で確かめるということが一番大事なのではないか。その中で感じていく。そのようなことを積み重ねていかないと、ほんの限られた中での判断になる。ベーグル専門店「ホオバル」が今日オープンしたが行って見たか。そういうところに行くと、オーナーにどうしてそこにお店を出したのか聞いてみるなど、そのような積み重ね、いろいろな題材があると思う。私たち自身がそういう中に入って自分の目でいろいろな知識を得て、自分の考えを構築して、この町の動き、これからどのようにしていくのか自分なりに考えて発言していくということが一番大切なことだと思う。ぜひ自分の目で調査をしていただきたい。調査なくして発言なしである。そうやって一つ一つ行って見てほしい。いろいろな活動があるはずである。その中で自分の意見を作ってもらいたいと思っている。本城会長も高田警女の会に来て見てくれた。次は、私たちが南本町に行くと藤棚を見たり、こんな活動があるのかと発見する。そのような中でこの町に対する愛情というか、このような人たちがいるということを知り、自分は何に誇りに感じるか、答えが導かれると思う。

【本城会長】

いろいろと意見が出ているが、これに関連して、市の考え方を確認したい案件があ

る。皆さんのところにヒアリング調査の調査票が配られたが、それと南部まちづくりセンターが依頼者として地域協議会の皆さんに送付した関連について、澁市副会長からご質問いただきたい。

【澁市副会長】

今、本城会長がおっしゃったヒアリング調査票をご覧になったか。かなり高度な質問があり、南部まちづくりセンター所長名の依頼文とともに5月12日付けで送付されたものである。文章を読んだが、なかなか理解できなくて、例えば一つ読み上げると「具体的には、地域自治の活動を活性化させるための予算の仕組み、地域の活動団体、総合事務所やまちづくりセンター、地域協議会、区域の各項目について、現状把握と課題の分析を通じ、『理想的な姿』を描くとともに、それを実現するための制度設計を行うこととしています」とある。昔から言われてきたことだが、このようにポンと出てくると、どういうことを考えているのか、なんの説明もなく素人にこのような質問票で「あなたは地域協議会についてどう考えてるのか」とかいうことを尋ねられても非常に答えづらい。しかも、記名アンケートで無記名ではない。どのような経緯からこのような調査の実施に至ったのか。市長の指示なのか、あるいは事務局、あるいは木田の関係課が作成して指示を出したのか。地域協議会委員の他にも送っているのか。どのように使われるのか。この調査票に回答するには相当な予備知識がないと答えられない。説明会が必要と思われるがどうか。私は事務局にお聞きしたいと思っている。

【西山委員】

先ほどの地域活性化の方向性の作成工程の話は、もう終わったのか。澁市副会長の話と本城会長の話の内容は異なるので、1回話しを話を閉めてから澁市副会長の質問を協議するのであればよいが、中途半端なので1回締めてはどうか。

【本城会長】

承知した。地域活性化の方向性についての話を一応終了させていただきたい。ただ、これに関連をして、今澁市副会長から話があったように、皆さんのところに送付されたヒアリング調査ともう一つ、まちづくりセンターから地域独自の予算事業の活用団体に対してヒアリングをやるという案内も届いた。6月の上旬から中旬にまちづくりセンターで、委員宛ての調査票と同じような内容について意見を聞くもの

である。市の方針がどういう方針なのかよくわからない中で、いきなりこの独自予算に関するヒアリングと言われても、誰が担当でどう答弁すればいいのか団体側は戸惑っている。依頼文がまちづくりセンター所長名だが、本来であれば28区の地域協議会の会長を集めて地域協議会のあり方や地域の活動について、こういう調査をやるという説明があつてよかつたのではないか。いきなり送られてきた。先ほど所長に聞いたところ、これは地域政策課からの指示によると。従つて、南部まちづくりセンターだけではない。全28区の委員に送付されたものである。しかも記名して。なかなか書けないこともあるのではないか。疑問としては、市独自予算を取つた市民団体まで呼び出されて1時間程度の意見交換をするという依頼がきた。同時に、地域協議会委員にもこのアンケートが送られて調査票に回答してくれと。

【西山委員】

渋市副会長が言つたアンケートは、また全然話が別件である。

【本城会長】

別件だが、内容的に私が言つているのは、市がそういう方針を出すのであれば、すべて会長会議を開いて然るべきである。地域協議会の将来性はどうかという、新年度でどうするのかといった検討材料にされる懸念を持っている。皆さんがアンケートを依頼されてどのように受けとめたかわからないが、私はそのことを含めて、関連性があるので、そのことを事務局に確認をしたい。

【大島所長】

お願いのところで目的は書いてあるが、「現状把握と課題の分析を通じて、地域自治の理想的な姿を描くとともに、それらを実現するための制度設計を行うこととじています」ということだが、これは、一緒に送付した、地域自治推進プロジェクトの概要をご覧くださいと真ん中より下のところ、オレンジ色の線で囲みになっていて検討の展開順序、現状のまま推移した場合の課題の深掘り、合併後20年を迎えようとする今、20年後の将来を見据えた理想的な姿の考察、それを実現するためのロードマップの策定と、その論点ということで、地域自治の活動を活性化する予算、活動団体、地域協議会、事務所まちづくりセンター、それから地域自治区の区域というのを示してあつて、その右側の検討方法というところで、総合事務所、まちづくりセンターを含む庁内での協議。地域協議会や住民組織など、活動団体へのヒアリングと

協議、他自治体の事例調査ということで書いてあり、これというのは、ご承知のように、市長の公約を8プラス1のプロジェクトとして取りまとめたものである。当時、委員の皆さんにもお示ししているもので、まさにここに書かれていることをこれからやろうとしているということであり、何か新しい方針を出したとかではなく、ここにあるプロジェクトをこのとおりに進めようとしているところである。時間が経ってしまったことから、皆さんの中ですぐに結びつかないところがあったかと思うが、取組としては、当初のプロジェクトの進め方とおりに今やろうとしているので、ご理解いただきたいと思う。

【西山委員】

1年か2年前にあれだけ仰々しく、12地区でアンケートをやって、全部これとほとんど同じ意見を取って、集計して、地域協議会の意見にあんなに何ページも書かせてまとめていた。今回またアンケートをする必要があるのか。設問もほとんど同じ内容が入っている。先ほど澁市副会長が言われたが、無記名できちんと年代と地区だけ出ているわけで、それを集めたのを有効利用していないで、検証内容をみんなに配ったり、市の人が説明に来たりしたあれは将来的にどうなるのか。あれはもう終わって関係ないのか。前期の終わりぐらいにやった。

【大島所長】

そのアンケートというのを承知していないので、お答えのしようがないが、また先ほどのお話も関連あるが、過去にやってきたもので、当然使うべきものというのであれば、それは活用すべきだと思う。まずは確認させていただいて、そのアンケートが今どのような状況であるかをこちらで確認させていただきたいと思う。今回のアンケートで記入者記名になっているというところだが、事務的な誤りであり、この記名は必要がないところをこのように書いてしまったのでお詫びさせていただく。

【浦壁委員】

私たちは何だか混線しているのではないかと。今ヒアリングについて、市から説明があった。それはそれでいいと思う。西山委員の意見もあるが、行政も担当が変わる、やり方もそれぞれ協議した上で、ずっとその前やったことは、それを参考にしていってやるかはわからないが、それは行政のやり方であって、それを運用するというのは私たちではできないと思う。従って、これは地方自治の推進を強力に今上越市がや

っている中で、市が私たちに求めているヒアリングであって、地域協議会とは、地域協議会の委員に出してはいるが、この協議会で協議したり、検討したりする必要はないと思う。これはあくまでも市と委員の間のアンケートなので、それなりに答えていけばよいのではないかと思う。この議題が地域活性化の方向性というのは、私たちは高田区の地域協議会である。ここで私たちが、地域活性化の方向性について、1人ずつ意見を聞いて、特に今まで学習的なことは相当やっているから、もっとはっきりとした方向性を示せるような意見交換をすべきだと思う。以前の調査で市が聞き取り結果を各自治区に説明したのも、これらはみんな参考資料というふうな、自分の考えの土台とする基礎資料として自分自身が精査するものであって、この協議会で内容について云々するものではないと思う。あくまでも私たちは高田区なので、高田地区の独自性で、この中で徹底的に意見交換をして、その方向性を決めていくべきだと思う。

【本城会長】

浦壁委員のお話の後段の部分は、先ほどそういう方向で議論をしてまとめた話である。その部分は切り離さなければならない。今はアンケートの話をしているので、後半の話は逆戻りみたいな話になるので、それは切り離してほしい。

【杉本委員】

今の発言の中で、一つ大変気になったところがあったのだが、行政というのは、行政の継続性というのがある。担当が変わったからコロッと政策を変えてよいという話にはならないはずである。方針なり政策なりを変えるときには、こういう理由で変えるということをオーソライズして変えていくというのがルールだと思うが、先ほどの浦壁委員の話を聞いていると、それを飛ばして、担当が変わったんだから違う意見が出てきて当然のような話であったが、それは行政としてはあってはならないこと、ありえないことである。それを前提に物を考えられると、ここの議論も成り立たなくなるし、地域協議会が一期から連綿と積み重ねてきたものも、期ごとにみんな勝手にしろみたいな話になって、継続がなくなってしまう。行政のあり方というのはそうじゃないということを前提にしてお話いただければと思う。

【西山委員】

このアンケートは目的が書いてあるが、市長が変わったらもう1回アンケートを

とって、次年度から地域協議会だとか、まちづくり協議会というものの形をある程度変えるため行っているのかと思った。

【大島所長】

先ほどお示ししたプロジェクトの概要で書かれていること、これがまさに目的であり、何かあらかじめ決めていくというものではないと思う。従って、皆さんのご意見をお聞きして、まず私どものほうで案をお示しして、それにまた意見いただくというプロセスになるかと考えている。

【小川委員】

今、浦壁委員がおっしゃっているのが正論だと思う。本質だと思う。だから、今回のアンケートにしる、そんなに目くじらを立てる必要はないのではないかと。答えられなければ、答えなければ良い。答えられる人が投げかけられて、自分なりにその中で考えて、一つの刺激をくれたのだと思う。市がそれを参考とすることは、全然やぶさかではない。あくまで本質は浦壁委員がおっしゃった議論にもう1回戻るべきだと思っている。浦壁委員の意見は、これからみんなで作っていきましょうという意見である。

【本城会長】

失礼だが、浦壁委員の議論は、一旦締め切って終わった話である。

【浦壁委員】

よく終わった話とか、何とかした話というふうにとめられているが、個人個人がその問題について何も発言もしてないし、それについて自由討論というか、要するに意見交換というものが、ずっとない。私が言いたいのはそこである。

【杉本委員】

意見交換はしている。私は、意見をどんどん言って、私の意見はこうだとはっきり言っている。

【西山委員】

浦壁委員、会議ではルールがあって、この時間はその話をすると会長が言って、今皆それに対して意見交換した。それで、「もうありませんか」と本城会長が言って、意見がなかったから会長が「これで終わりにして別の話に入ります」と言って、次のアンケートの話をした時に、いや実は前のがと言われても、もう次へ移っているのである。

【本城会長】

いつも時間が余れば、その貴重な意見を聞くという場も作ってやってきている。その中で十分にご意見をいただいているという認識で私は運営している。その辺で言ってほしい。一旦終わったところで話を戻すことは議事運営のルール上、控えていただきたい。

【宮崎委員】

今日、調査票を書いて提出した。別に記名しようが無記名だろうが、私は自分自身の考えとしては、私が責任を持って答えたものだから名前を書いた。無記名というのはあまり好きではない。

【澁市副会長】

私が質問したことについて、一番重要なことは無記名でよいということである。だから、皆さん手元にあったら記名者氏名というところを消してほしい。宮崎委員、取り返してまた消してほしい。

また、この二つの資料が調査票に同封されていたが、どうして人口についてのデータが入ってるのか。質問を見たが人口と直接関係がない。また、調査票の上部に「ヒアリング調査票」とあるが、ヒアリングを日本語に直すと聞く調査、要するに調査票である。意味がわからない。ここに書いてある日本語もおかしい。目的の文章が長すぎる。そうすると理解できなくなってくる。最終目的は何なのかと聞いたら、現状把握と課題の分析を通じて、これは目的ではない。理想的な姿を描く。それをもとに制度設計をする。それが目的である。前段は不要である。そういうことを市役所ふう到我々に説明されても理解できないので、プロジェクトの概要をなぜ入れたのかもわからないし、これについても、2、3年前に説明を聞いたのでわかるが、要するにこの今回の調査票については調査票のデザイン自体が変だと思う。何を目的としているのか、この目的を達成するためにこのようなデザインでいいのかと庁内で検討しなかったのか。

【大島所長】

検討した結果としてお出ししているが、今ご指摘いただいたように、わかりづらいところがあったとすれば、その検討が足りていなかった部分があったものと反省している。

【本城会長】

これは、南部まちづくりセンターだけではなく、28区統一して同じ形で指示が下りているのか。この雛形も含めて、市の方針ということであるか。

【大島所長】

市の方針として作っているものである。

【澁市副会長】

我々は6月の中旬までに出すが、集計されたアンケートのフィードバックはあるのか。前回やられたアンケート調査の際は、こういう集計になり、こういう結論であるというフィードバックがなかった。前は項目も多く、質問自体が非常に詳しい質問だったので、私は1時間ぐらいかかった。400人ぐらいを対象にしていたと思うが、それについてのフィードバックが全然ない。人にやらせておいて、結果こうになりましたと公表するのは当然の話ではないか。

【大島所長】

理想的な姿という形で案をお示しするという事は確実だが、どういう形でそれをするかというところまでは、まだ決定していないので、この場でお答えはできない。今回のアンケート結果を基にして、理想的な姿というのを案として作りたいという意図である。

【西山委員】

せっかくアンケートをとるのであれば、参考にすると言うが、委員に結果だけでいいから返してもらいたい。これだけ意見を取って、他の地区もとっていて、うちの会議の内容はどうかなどと聞いているのだから、せめてその分、結果だけは返してもらいたい。

【大島所長】

希望としてお聞きした。私の判断でここで結果をお返しすると即答することはできないので、ご意見をいただいたということで課内で協議させていただきたいと思う。

【小川委員】

特に誰がどういう意見を書いたことはそんな必要ない。あくまで参考にしてもらえばいいと思う。

【富田委員】

「地域協議会の第3期委員にアンケートを実施したところ、このような意見が出ましたので、これを加味して制度設計に作ろうと思っていますが、こういうところがまだ不明確なので皆さんからアンケートをとります」といった中間報告がないことから、進捗がわからない。だから、何を答えていいか本当にわからない。本来であれば、プロジェクト長が来て、皆さんからいただいた意見をフィードバックしながら、あとわずかで制度設計ができますが、最終的に皆さんのご意見を聞きたいなど、そのような説明があると答えやすい。そういうフォローがない。

【大島所長】

進捗ということでは、先ほども申し上げたが、プロジェクトの概要の紙で書いてあるこの点線の囲みのところを、今まさにこれからやろうとしているところなのである。非常に遅いではないかというご批判も受けるが、まさにここに書いてあることをやっているところが今の状況である。

【富田委員】

1年3か月どうやってきたのかということを示してほしい。行政はいつもこうである。ここに書いてある。これを今やっているというが、何をやっているかわからない。

【小川委員】

調査票に添付の地域自治推進プロジェクトの概要に書いてある。地域のことを地域で実行できる取組を生み出していくかとか、地域の人材を取り込むかとか、地域のニーズを把握していくかとか、これは、要は富田委員のようにいろいろなところに顔を出して話をして、そういう中でこういうことがわかっていくのである。だから、人材もいろいろなスポーツのクラブに参加してそこで友達ができ、その中で新たな人材と一緒に引っ張ってみるとか。おっしゃっていることはよくわかる。しかし、それでいちいち目くじらを立てる必要はないと思う。あくまで、こういうことを参考までにこう聞いた。それと、我々に刺激を与えてくれたのではないかと考える一つのきっかけというか、自分ももっとそういうところに行っているいろいろなことを見て、自分なりに感じて考えなければ、この答えは書けないなということに気づけば自分で行動するではないか。人材、友達を作るではないか。その中からこれからの方向性が生

まれていくのだと思う。

【本城会長】

その議論は、やめてほしい。議事進行に協力してほしい。私どもが今懸念してるのはヒアリング調査票が配られ、これについての目標だとか、集約結果だとか、どのように反映していくのかとかということであるが、そもそも市から我々への提案の趣旨がよく呑み込めていない。先ほどの話のように地域協議会のこれからの将来をどうするのかとということなども問う内容があったり、委員をどうするか、そこまで入り込んできている。だから、ヒアリングのやり方がもう少し慎重であって欲しかったと内容的にも思う。むしろそれを書けば反映されるのかと思うことから、その思いをヒアリングの調査票に無記名でお書きいただきたい。市長の方向性があまり見えていない中で、このような調査を依頼されたということを受けて、回答していただくということでもよろしいか。

【杉本委員】

南部まちづくりセンター所長の名前で出ているが、市全体でやるのであれば、頭に各センターなりの長の名前がついていないと、全体でやっているというふうに見えない。この文章だけで見ると、端的に言ってこれは南部まちづくりセンターだけでやっている。だから四つの自治区だけでやっているようにしか見えない。細かいことだが気になる。

【本城会長】

私は冒頭に申し上げたのに、今年の独自予算をもらった市民団体にこれと同じような内容で来ている。受け取った団体は、市長ではなくセンター長からの文章であることから、高田区を所管するセンター長がアンケートを実施していると理解する。28区の協議会委員全員にそのような指示が下りたということが見えなかった。地域独自の予算事業の活用団体も混乱している。内容的には大体同じだが、まちづくりセンターへ来てもらいヒアリングをすると。そうすると、私どもの受けとめ方と違うものだから、私はこの取り扱いをお尋ねしたかったのである。市に対し会長の立場で言わせてもらえば、本来このような問題は28区の会長会議を開き、地域自治推進プロジェクトの中間報告をしながら、こういう方向でヒアリングを行うという説明があって然るべきである。

【小川委員】

それはそれでよいが、あまり細かいことを言わないで回答すればよいのではないか。

【本城会長】

細かいこととおっしゃるが、28区全部の委員に対してアンケートを取っている。だから、高田区だけのヒアリングではないわけである。

【小川委員】

我々が答えるのは高田区の住民としてではないか。高田区地域協議会委員としての意見が求められている。細かいことを議論するよりも、本来の方向性のほうに話を戻さないか。

【本城会長】

私が言っているのは、400名近い委員にアンケートを求めるのであれば、市長名の公文書があってもよいのではないのか。

【杉本委員】

私が言ったのはそういうことを気になる人もいるし、小川委員のように気にならない、もっとおおらかでいいじゃないかという人もいらっしゃる。その考えを他の人に押し付けてはいけないというのが、私の言いたいことである。だから、私は、もっとおおらかにやってもいいと思ったらそういう意見を言ってもらって、それが意見交換になるわけだから。これを終わりましたと言って締めた後で、また繰り返されると困るから今のうちに意見は全部出していきたい。

【本城会長】

予定の時間を過ぎている。最後に何かあるか。

以上で次第3 議題（1）地域活性化の方向性についてを終了する。

－ 次第3 議題（2）令和5年度地域協議会の活動計画について －

【本城会長】

次第3 議題（2）令和5年度地域協議会の活動計画についてに入る。

澁市副会長より説明を求める。

【澁市副会長】

- ・当日資料No.1により説明

【本城会長】

澁市副会長の説明について、質問のある委員の発言を求めるがなし。

以上で次第3 議題（2）令和5年度地域協議会の活動計画についてを終了する。

－ 次第4 事務連絡 －

【本城会長】

次第4 事務連絡 に入る。

事務局より説明を求める。

【滝澤副所長】

- ・今後の地域協議会等の日程連絡

学習会：6月19日（月）午後6時30分から 福祉交流プラザ

第3回地域協議会：6月26日（月）午後6時30分から 福祉交流プラザ

第4回地域協議会：7月18日（火）午後6時30分から 福祉交流プラザ

- ・配布資料

和田区、大潟区地域協議会の「地域活性化の方向性」

男女共同参画推進センターのチラシ

先ほどご質問等いただいたヒアリング調査票は、来月の協議会の際に受付でご提出いただきたい。

【本城会長】

- ・全体を通して質問等を求めるがなし。
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 南部まちづくりセンター

TEL: 0 2 5-5 2 2-8 8 3 1 (直通)

E-mail: nanbu-machi@city. joetsu. lg. jp

1 0 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。